

114  
A3782  
2



起スノ要ハ能ク其種類ヲ擇ンデ之ガ生殖製造ニ従事ス  
 ルニ在リ否ラザレバ勞シテ功無ク得ル所失フ所ヲ償ハザルノ  
 弊アラントス且ツ新タニ荒蕪ヲ開キ硿確ヲ鋤キ以テ民ヲ植シ  
 産ヲ授クルノ際ノ如キ最モ宜シク此ニ注意スベキナリ夫レ天  
 地間ノ物産其數固ヨリ多シ然レモ土質ノ異ナル氣候ノ別ナル  
 彼ニ適シテ此ニ適セス蕃殖地ヲ擇バザルモノ僅々ノミ而シテ甜  
 菜根ハ其尤ナリ此物ヤ既ニ生殖ニ易ク又能ク製造ニ適シ功用  
 利益ノ多キ世多ク其山類ヲ見ス蓋シ書中陳述スル所ノ如ク之  
 ヲ耕植スルニ曾テ土地ヲ擇バス又多ク力役ヲ要セス以テ多量  
 高價ノ收入ヲ得且ツ近傍ノ作物畜類モ亦為メニ一層ノ繁栄生  
 育ヲ見ルノ餘澤アリ又之ヲ製シテ砂糖トナセバ其需用甚タ廣  
 大ニシテ之ヲ甘蔗製ノ物ニ比スルニ毫モ相劣ラザルノミナラ

八限正  
侯爵邸寄贈



ス甘蔗ノ産出ハ獨リ熱帶地方ニ限リ甜菜根ハ北緯六十度ノ寒  
國ト雖モ猶オ其繁殖ヲ見ルベシ況ヤ其葉及ヒ壓搾ノ渣滓ハ以  
テ畜牛ノ飼料ニ充テ、一層善良ノ乳酪ヲ得ベク殆ンド拋棄ス  
ベキノ部分無キニ於テオヤ其次ハ則チ亞兒箇兒ノ製造ナリ亦  
是レ必需ノ物品ニシテ高價ニ屬ス蓋シ甜菜根ヲ耕植スルノ地  
方耕夫職人傭工等ヲシテ冬夏ト無ク服スベキノ事アリ以テ自  
カラ供給スル所アラシメノ風俗隨テ敦厚犯罪殆ンド跡ヲ絶チ且  
ツ其農業ト製造事業ト密接ノ關係アルヲ以テ田圃ノ培養法自  
カラ改良ニ赴キ學知教育自カラ擴充スル所アリ遂ニ一國ノ幸  
福ヲ組成スルノ好結果ヲ生スル資トナスベク其利澤殆ンド推  
測スベカラザルモノアリ苟モ物産ヲ起スノ志アル者宜シク此  
ニ注目スベシ況ヤ開墾植民ニ従事スル者ニ於テオヤ抑々我政  
府大ニ内地ノ物産ヲ起サント欲ス地ニ遺利アリ國ニ游民アル

最前  
ノ極  
其要  
本邦  
微  
右ノ外

ベカラス叅議兼大藏卿大隈公此ニ見ルアリ夙ニ其貴重ノ植物  
ナルヲ洞察シ以テ為ラク現今内地ノ物産ヲ起スニハ廣ク此物ヲ  
播植セシムルニ及クハ莫シト曩日來吉原大藏大書記官ト謀リ  
洋書中其記述最モ詳備ナルモノヲ擇ミ翻譯課員峰源次郎ヲシ  
テ之ヲ邦譯セシム其意蓋シ之ヲ世ニ公ケニシ有志者ヲシテ因  
テ以テ學知實驗シ大ニ其効績ヲ收メシメントスルニ在リ余之  
ヲ課長ニ承ケ始メヨリ其事ニ干預シ深ク感發スル所アリ譯成  
リ上梓スルニ及ンデヤ之ヲ摘録シ巻端ニ置キ以テ世ノ物産ヲ  
起スニ志アル者ニ告ク

明治十一年戊寅九月

大藏少書記官土山盛有謹序

大藏

根ハ北緯六十度ノ寒  
及ヒ厩窄ノ渣滓ハ以  
得ベク殆ンド拋棄ス  
一見箇兒ノ製造ナリ亦  
菜根ヲ耕植スルノ地  
ベキノ事アリ以テ自  
罪殆ンド跡ヲ絶チ且  
以テ田圃ノ培養法自  
所アリ遂ニ一國ノ幸  
ベク其利澤殆ンド推  
ノ志アル者宜シク此  
ニ於テオヤ抑ク我政  
利アリ國ニ游民アル

リ夙ニ其貴重ノ植物  
起スニハ廣ク此物ヲ  
大藏大書記官ト謀リ  
譯課負峰源次郎ヲシ  
ニシ有志者ヲシテ因  
シトスルニ在リ余之  
感發スル所アリ譯成  
置キ以テ世ノ物産ヲ  
官土山盛有謹序

最前差上候州稿ニハ左ノ一故際要ト心得挿入致シテ得共事實相違  
ノ趣ニ付不得止相削り申次  
其實驗上ニ在テハ獨リ海外諸國ノ善子ク怪産スル所タルノミナラス  
本邦ニ於テモ既に勅商白開拓使ノ現試スル所ニ係リ其効驗歴々  
徴スベシ  
右ノ外最前ノ州稿ニ比スレバ文字上ノ更正ニ係リ以外大同小異ナルニ

